

人生の「春夏秋冬」に  
寄り添う



秋田工場では製品の組立も行われる。

短縮にもつながりました。形になった後も修正やメンテナンスを自社で即座に対応できるのは、わが社の強みです。

医療部品の金型製造には、水を多く使う。清らかな秋田の水と空気があることで、企業の価値は向上した。

「父は秋田へ工場を作ってから、太陽光発電にも取り組んで環境へ配慮していました。取引先を秋田に招待し、この環境を見てもらうことで安心を感じていただく。当社には営業がない分、そういったことで信頼を得ていたと思っています」。

従業員の人生を豊かにできる企業でありたい

鈴木さんは働く人たちの人生を豊かにしたいと語る。

「今は残業無し、休日出勤無しは当たり前。働き方はもちろん、もっと先を考える必要があると思いました。私の目標は『一生働ける会社にしよう』。帰属意識を高めるために福利厚生を充実させ、スキルアップの制度を整えました。働いている方がその企業でいかに成長できるか、それを会社としてサポートしたい。全員が平等な組織づくりを目指しています」。

一方でDXの導入にも取り組んでいる。秋田工場で生産管理と在庫管理のDXを進め、昨年11月から稼働した。これまで紙やそれぞれが作ったデータで管理をしており、PCの間接業務が増えていたという。

「今後は秋田工場での実績を踏まえ、八石工場でも行っていきます。その上で、一人ひとりが人生を豊かに生きていけるようにサポートしたい。誰も、人生には春夏秋冬がある。それぞれの状況を周囲にも理解してもらい、会社として応援していきたいですね」。

財産である人財（社員）に、企業は何ができるのか。株式会社セーコンの挑戦は始まったばかりだ。



社長も交えた打ち合わせ。垣根を感じない、明るい雰囲気だ。

株式会社セーコン

【秋田工場】  
〒019-1702 大仙市北橋岡141-2  
【八石工場】  
〒019-1701 大仙市神宮寺字八石高野90-1  
TEL 0187-72-4588 <https://se-kon.co.jp/>

代表取締役社長  
鈴木 浩子 (すずきひろこ)



横浜で創業し、大仙市に2つの工場を構える

株式会社セーコンは神奈川県横浜市に本社を構えるものづくり企業である。プラスチックの射出成形・加工業や金型設計・製造を行っており、設立は1972年。設立当初は本社のある横浜市鶴見区に工場を構えていた。現在の代表を務めるのは、2代目の鈴木浩子さんだ。

「創業者は私の父です。設立から10年の節目に、よりよいものづくりの環境を求め、父の生まれ故郷である大仙市北橋岡に量産工場を設立しました。人口が多い鶴見に比べて空気が澄んでいること、水がきれいなことは、製造業をする

上で恵まれていると考えたそうです。工場を秋田に移転したことで、それをプラスに捉えてくださった取引先も多く、現在も取引が続いています。

その後、1989年には同じく大仙市の八石地区に工場を設立し、2つの工場での操業を続けている。

「創業したのは高度成長期で、当時は自動車関係やカメラなどの部品を作っていました。その後、電子関係なども作っていましたが、秋田に工場を設立してからは医療製品の分野に進出しました」。現在製造を行っているのは医療系3割、工業系4割、錠前の部品が3割と、バランスが取れている状況だという。

オーダーに細やかかつ、迅速に対応したい

金型の設計・製造も自社で行っている。当初は外注で賄っていたが、細かな対応を迅速に行うためには、自社で対応できるようにしなければならないと判断し、平成に入るところには社内で金型の製造を行うようにした。

「お客様のニーズに対応するための細かな配慮も、自社で製造しているからこそ対応できます。金型の設計・製造ができるようになったことで、首都圏との距離があっても納期



2026年に新しく建て替えた、秋田工場外観。



人の目でひとつひとつ製品を確認し、検査を行っている。